

を語る 1

にかほ市(秋田県)

にかほ市長 横山忠長

夢あるまち 豊かなまち 元気なまちづくりを目指して

はじめに

秋田県沿岸の南の玄関口となるにかほ市は、平成17年10月1日、仁賀保町、金浦町、象潟町の3町が合併して誕生しました。南東に出羽富士といわれる鳥海山、西に広大な日本海を望む、人口約2万8000人の市です。

豊かな自然や貴重な文化遺産に富んだ歴史・遺跡が数多くあるほか、当時、人跡未踏の地・南極に挑んだ白瀬日本南極探検隊の隊長、白瀬蘆生誕の地であり、近代には、TDK(株)を核としたハイテク企業の集積と、古くからたくさんの人材が集まり、まちを愛する多くの人々の英知に支えられ、自然と調和の取れたにぎわいのあるまちです。

市政運営の基本方針

さて、本市の財政状況は、ここ数年の一般財源の急激な減少、また、世界同時不況により、景気後退や雇用不安が続いております。ようやくどん底から抜け出したと言われながら、大都市部のような増収にはつながらず、不足する財源に財政調整などの基金を充てているという状況です。

こうしたことから、今後は市独自の歳入の掘り起こしと、さらに徹底した歳出削減および事業の「選択と集中」を図ることで財源を捻出して、19年度からスタートした「にかほ市総合発展計画」の各施策、事業の貴重な財源として効率的かつ効果的な予算配分を実施しているところです。

厳しい財政状況下でありながら

も、「夢あるまち 豊かなまち 元気なまち」さらには「住みたいまち にかほ」を目指して、職員ともども一丸となって、市民参画の協働のまちづくりにまい進しております。

平成21年度の主な事業

本年度の主な事業としては、仁賀保統合中学校本建設や都市防災総合推進事業への着手、まちづくり交付金事業の継続、旧3町を結ぶにかほ幹線道路改良事業の継続などがあります。

雇用の創出・拡大や若者定住が喫緊の課題であることから、企業立地も市の重要施策と位置付けております。現在、本市においては、一定規模の面積が確保される工業団地はすべて売却済みのため、関係機関の力をお借りしながら、新規の企業立地や既存事業所の生産

拡大に沿えるよう、新たな工業団地整備など必要であります。また、既存企業の経営安定、生産拡大などに対するフォローアップも大事ですので、できる限り要望に応えられる体制づくりも重要な課題です。

商店街振興策については、購買意欲の高揚や地元消費拡大を図る施策として、共通商品券事業に対する助成など、商工会と協議しながら連携を図っております。

観光振興策については、本市の恵まれた自然と歴史的・文化的な観光資源を最大限活用し、その魅力を広くPRするとともに、特産品開発や観光施設従事者の接遇改善、観光案内人の育成により、来訪されるお客さまの受け入れ態勢の向上に努めるほか、観光客誘致による地域商工業の振興および地域活性化の施策を引き続き実施してまいります。

まちづくり交付金事業では、勢至公園周辺の整備として観音湯と

ン)で南極に向けて出航してから平成22年11月で100周年、また、明治45年1月に南極大陸初上陸、28日に南緯80度05分、西経156度37分に到達、日章旗を立てて一帯を「大和雪原」と命名してから平成24年1月で100周年、この間、平成23年6月13日には、世界が認める郷土の偉人・白瀬蘆隊長生誕150周年に当たります。

こうした大きな節目を迎えることから、白瀬蘆隊長や「日本南極探検隊」の壮挙をたたえ、秋田の元気づくりをにかほ市から県内外、全世界に発信するため、秋田県や報道機関、関連団体と連携してプロジェクト実行委員会を立ち上げました。

白瀬南極フェアや白瀬中尉をしのぶ集いなどの既存事業のほか、記念コイン、切手の発行、県民創作ミュージカル、新「しらせ」寄港イベントなど、本年から3カ年にわたる記念事業を計画する予定です。

おわりに

合併して3年余りが経ち、これまでは市民が安心して暮らせるまちの基礎をつくる大きな責務でありました。これから



鳥海山を望む仁賀保高原

白瀬南極探検隊100周年記念プロジェクト

明治43年11月29日、東京芝浦港から木造帆船「開南丸」(204ト

プロフィール

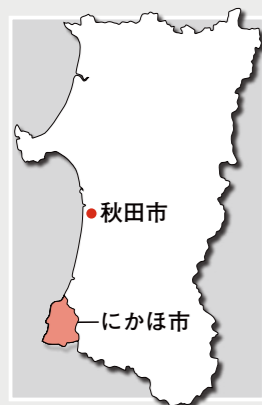
- ◆ 面積 240・61km²
- ◆ 人口 2万8652人
- ◆ 世帯数 9583世帯

〔将来都市像〕夢あるまち 豊かなまち 元気なまち

〔まちの特徴〕にかほ市は、県南西部に位置し、南に鳥海山、西に日本海を望む山と海に抱かれた地域です。地勢は、鳥海山の山すそが海岸近くまで延び、気候は、県内では最も温暖で、降雪量も最も少ない地域です。



にかほ市長 横山忠長



- 〔市町村合併〕平成17年10月、仁賀保町、金浦町、象潟町で新設合併
- 〔特産品〕鮮魚、地酒、ハタハタ寿司、ジャージー乳製品
- 〔観光〕鳥海山、九十九島、仁賀保高原、獅子ヶ鼻湿原、元滝、白瀬南極探検隊記念館
- 〔イベント〕三崎公園・勢至公園観桜会、日本海花火フェスティバル、白瀬・南極フェア、秋田トライアスロン、芭蕉レース象潟大会、あつあつおらほの鍋自慢

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

を語る 2

阿賀野市(新潟県)

阿賀野市長 天野市榮

子どもから高齢者までが「福祉」を 実感できる福祉都市を目指して

はじめに

阿賀野市は、平成16年4月1日に、2町2村(安田町・京ヶ瀬村・水原町・笹神村)で合併した、新潟県内で21番目の市であり、平成21年4月1日現在の人口は約4万7000人となります。また、この「阿賀野市」という名前は一般公募した上で、①全国的にも知名度があり、悠々とした大河「阿賀野川」にはぐくまれて、その恵みを享受し発展してきた地域であること②山紫水明の当地域を表現するにふさわしい名称として平成14年11月に決定されました。

古くから旧4町村は地理的・歴史的に一体感があり、北蒲南部郷と呼ばれるほど経済・文化・生活といった多様な面で強い結び付きのある地域で、合併誕生期を経た

今後はさらなる発展が期待されています。

本市には、毎年冬になると6000羽を超える白鳥が飛来する、全国的にも有名な「瓢湖」があり、母なる大河阿賀野川と勇壮な五頭連峰に抱かれた美しい自然と、新潟市の中心部から東南へ約20km、車で約30分の距離にありながら豊かな自然環境に恵まれた都市です。

また、本年になり、瓢湖に飛来する白鳥・母なる大河阿賀野川・勇壮な五頭連峰をモチーフにした市のイメージキャラクター「ござっちょ」が市民投票を経て選ばれました。

また、本市を全国に発信するために着ぐるみも製作され、市内におけるイベントや本市の観光PRのために市民と共に頑張っています。

高福祉のまちづくりに向けて

超高齢者社会が到来した今、全国の市町村では医療費・介護サービス料の増加が大きな問題となっています。本市では医療費・介護サービス料の減少と、市民の方々が生き生きと暮らせる「健康寿命」を延ばすために、フィンランドにおける介護予防の考え方を取り入れた、さまざまな事業を実施しています。

●元気づくりを支える体制の整備

高齢者の方々が生き生きとした生活を長く送るためには、元気づくりを支えてくれる地域のサポートの存在が重要となってきます。そのために、地域で高齢者の方々に支えてくれる「元気づくりサポーター」を養成する講座を開催し、すでに30名の方々に受講していただ



阿賀野市のイメージキャラクター「ござっちょ」

きました。今後は、元気づくりのための基礎知識だけでなく、専門的な知識も学んでいただき、地域で元気づくりを目指すような体制を整えていきたいと考えています。

●介護予防のための水中運動普及

本年4月にフィンランド型介護福祉のコンセプトを取り入れた、特別養護老人ホーム「白鳥荘」が新たに開所となりました。施設は、フィンランド方式の特徴である、明るく、広々とした空間を持ち、一般市民も利用できる「リハビリトレーニング室」「プール」「喫茶・交流コーナー」が併設されています。本市ではこのプールを借りて、水中運動教室の開催や指導者の育成を進め、運動する市民の増加、健



ラムサール条約登録湿地として認定された瓢湖

康寿命の延伸による介護予防・健康づくりと併せ地域活性化を目指しています。

●シャキーいきー健康法の普及推進

健康を維持するために運動は欠かせませんが、運動を苦手とらえている人も多く、なかなか運動が生活の一部とならない状況があります。そこで、運動が苦手な人でもできる健康法として「誰でも、いつでも、どこでもできる」を合言葉に市独自の「シャキーいきー健康法」を考案し、普及推進に努めています。

これらの事業を総合的に推進するため「阿賀野フィンランド健康福祉センタープロジェクト」と名付け、阿賀野市にしかない高齢者対策「阿賀野スタイル」の構築に向けて健康づくりに関係する福祉課・健康推進課・生涯学習課・企画政

策課の4課が共同して事業に取り組んでいます。

市民の憩いの場「瓢湖」を 全国に向けて

瓢湖は、寛永16年(1639年)に13年の歳月をかけて完成した農業用水池です。

瓢湖の周辺では四季折々さまざまな季節の花があでやかな姿を見せてくれます。春は瓢湖を囲むサクラ(ソメイヨシノ)、初夏はアヤマ(ハナシヨウブ)やアジサイ。8

月になるとハスの花が湖面を埋め尽くします。そして冬になると、シベリアから白鳥が渡ってきます。白鳥が瓢湖に最初に飛来したのは昭和25年。当初は人間の近くに寄ってきませんでしたが、5年間にわたって研究を重ねた結果、昭和29年2月5日、ついに困難だといわれていた野生の白鳥の餌付けに成功したのです。この歴史的に珍しい事例で昭和29年2月に県、3月には国の天然記念物の指定を受けることとなりました。以来、白鳥の飛来数は増加を続け、現在では6000羽を超える白鳥が越冬のため瓢湖に飛来します。また、白鳥以外の水鳥でも十数種類の野

鳥を観察することができます。

現在は、瓢湖の北側に新たに「さくら池」「あやめ池」が造られ、瓢湖水きん公園の総面積は30・4ha(瓢湖の3倍)に広がりました。

これらのことから、「国際的に重要な湿地」と認められ、平成20年10月30日ラムサール条約登録湿地として認定されました。

本市ではこのことを受け、「市民の憩いの場」としてだけではなく、

プロフィール

- ◆面積 192・72km²
- ◆人口 4万6925人
- ◆世帯数 1万3640世帯

〔将来都市像〕人・まち・自然が輝く「幸福都市」阿賀野

※「幸福」＝「幸福」と「福祉」を掛け合わせた造語。市民誰もが住みやすさ、暮らしやすさを実感できるまちづくりの理念を表現したものであること

〔まちの特徴〕蒲原平野のほぼ中央部に位置し、美しい自然に恵まれたふるさと

〔市町村合併〕平成16年4月1日、安



阿賀野市長 天野市榮



田町・京ヶ瀬村・水原町・笹神村が新設合併
〔特産品〕お米、安田瓦、ヤスタヨイグルト、三角だるま、日本酒
〔観光〕瓢湖、水原代官所、五頭山麓うらの森、五頭温泉郷、吉田東伍記念博物館、サントピアワールド
〔イベント〕阿賀野市桜まつり、瓢湖あやめまつり、ふるさとだしの風まつり、水原まつり、コスモスまつり(うらの森・京ヶ瀬)、ささかみゆうぎの里火祭り

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

「ごどもからおとしよりまですべてに」 優しい思いやり市政の実現を目指して

はじめに

上尾市は、首都東京から約35kmの距離にあり、埼玉県の南東部に位置しています。江戸時代には、五街道の一つである中山道の宿場町として栄え、近代では地理的條件の良さから、田園都市から工業都市そして住宅都市へと変ぼうし、



上尾駅西口改修事業の完成予想図

現在、人口は22万5000人を超え、埼玉県の中核を成す都市へと発展してきました。

特に、昭和40年代の後半には、都心のベッドタウンとして、人口増加率が全国一を誇るなど、急速な都市化が図られました。

人口急増期には保育所・小中学校の新設、生活道路・下水道の整備に追われましたが、近年は来る高齢化社会を見据えたバリアフリー社会への環境整備など、市民の皆さまが快適に生活していただくためのインフラ整備を積極的に進めています。

また、ソフト分野では市民サービスの質の向上を目指し、ISO9001の認証取得や市民生活に直結する窓口部門の土日開庁を実現するなど、全国に先駆けた施策を数多く展開し、「住んでよかつ

た」「住み続けたい」まちとして、着実に発展しています。さらに、昨年は市制施行50周年の佳節を迎え、さまざまな記念事業を開催しながら祝うことができました。

市の顔にふさわしい駅づくりへ

現在、本市が進めている重点施策として、上尾駅のバリアフリー化を伴う改修事業があります。上尾駅は、明治16年に高崎線開通と同時に設置され、昭和44年に橋上駅に改修されました。以来、40年が経過しており、老朽化も目立ち、多くの皆さまから、一日も早い改修が望まれておりました。昭和44年には、1日約3万6000人であった乗降客数は、現在、約8万2000人となっています。東西自由通路は、朝夕の混雑時だけでなく、駅利用者や待ち合わせ

などで利用している人々であふれ、本来の目的である東西の横断にも不自由を来し、高齢者や障害者、小さな子どもを連れた方など多くの皆さまにとって、利用しづらくなっていました。

本市では、平成14年7月、市議会議員、商工会議所代表、学識経験者、事務区長、文化団体代表、身体障害者団体代表、駅利用者などから構成された市民20人の委員による「JR上尾駅改修等に係わる研究会」を、また、平成15年6月に「JR上尾駅整備等検討委員会」を設置し、それぞれの立場からの検討をお願いしました。そして、委員の皆さまから頂いた貴重なご意見やご要望をもとに、JR東日本高崎支社と粘り強く協議を重ねながら合意形成を図り、平成19年5月に着工することができました。完成後は、駅の東西を結ぶ自由通路の幅が現在の8mから20mに広がり、利用者の安全性・快適性・利便性の向上が図られます。また、

催し物などの開催場所や団体などの待ち合わせ場所として利用されることにより、交流の促進・にぎわいの創出が図られ、若者から高齢者まで多くの世代が集える空間となります。

バリアフリー機能として、自由通路や駅構内にエスカレーターとエレベーターが設置されるほか、改札内に段差をなくしたオストメイト対応の多機能トイレも設置されます。さらに、天井を高くして屋根上部周辺から自然光を取り入れ、開放感のある、明るい駅になります。

多くの方が利用する駅は、市の顔ともいえる存在です。人が集い、誰もが利用しやすい駅に生まれ変わりますので、平成22年度末の完成を楽しみにしてください。

真に求められる施策を経営感覚とスピード感で展開

本市は、荒川や綾瀬川の河川、原市沼川などの水辺環境など、良好で美しい里山の自然景観が残されており、四季折々に趣があります。

「春」には、桜の名所として、記念切手シート「2009さくら紀行



子どもたちでにぎわう夏の上尾丸山公園

「夏」には、毎年8月の第1土曜日に「あげお花火大会」が開催されます。県内最大級の約1万3000発もの花火を打ち上げ、県内だけでなく関東近県から毎年17万人近い来場者を迎えます。夜空を彩る花火が与えるひとときの清涼感や爽快感は、夏の暑さを忘れさせるイベントとして広く愛されています。

「秋」には、8000人を超える参加者を誇る「上尾シティマラソン」が開催されます。昭和51年に「スポーツ都市宣言」をした上尾市は、市民の健康づくりのためにふさわしい事業を数多く手掛けていますが、このシティマラソンは、

「冬」には、JR上尾駅を幻想的に彩る「あげおイルミネーション」がお客さまを迎えます。市内中学校美術部の作品をはじめ、親子の手作りイルミネーションが皆さまの心を温かくもてなします。

このように、暮らしやすく魅力あるまちづくりを第一に掲げ、ハード、ソフト両面の充実を図り

プロフィール

- ◆ 面積 45・55km²
- ◆ 人口 22万5857人
- ◆ 世帯数 9万401世帯

〔将来都市像〕あなたに げんきを おくるまち

〔まちの特徴〕埼玉県南東部に位置し、武蔵野の面影を残す自然環境と近代



上尾市長 島村 穰

ながら、各種施策を積極的に展開しています。市民サービスの質を高め、市民満足度の高い行政を実現するためには、市民の皆さまが真に求める施策を経営感覚とスピード感をもって展開することが不可欠と考えています。

- 〔特産品〕ナシ、ブドウ、キウイフルーツ
- 〔観光〕上尾丸山公園、上尾市民球場、健康プラザわくわくランド、児童館
- 〔イベント〕平方面どういんぎょまつり、上尾シティマラソン、あげお花火大会、あげおイルミネーション



※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

「時間ゆたかに流れ くらし潤う創造都市」を目指して

はじめに

橋本市は、和歌山県の北東端に位置し、世界遺産高野山麓の豊かな自然と、紀の川の清流に恵まれた面積130・31km²、人口約7万人の田園都市であります。

万葉のころからゆかしい歴史に培われた本市は、伊勢参りの伊勢(大和)街道、高野参詣の高野街道が交差する交通の要衝として、また、高野参詣の宿場町、産業の集散地として栄えてきました。

本市の名の起りは、天正年間、高野山中興の傑僧・応其上人が、紀の川に長さ130間(約235m)の橋を架け、物資の輸送や高野詣の旅人の便宜を図るとともに、そこで塩市を始めたことによるものと言われています。

紀の川の豊かな水と温暖な気候

371号は線形不良により、大型車のすれ違いが困難となっており、和歌山県北部の地域・交通・文化の拠点として、今後さらなる発展を図るためには、大阪府と和歌山県において、現在、工事着手中である国道371号バイパスの早期完成が大きな課題となっております。

目指すまちづくり

現在、本市では、行政体制の強化やスケールメリットを生かした



市名の由来に関係している紀の川

に恵まれた本市は、柿、巨峰、ミカンといった果樹栽培や県内生産量50%を超える鶏卵など魅力いっぱいの特産品を生み出しました。

中でも柿は、規格品質の向上により、味は日本一との折り紙付きであります。また、柿の副次的産物であります柿の葉寿司[※]は、サバ寿司を一つずつ丁寧に香り高い柿の葉に包んだ郷土料理で、お土産として全国的に高い人気を誇っています。

ほかに、県の伝統工芸品第1号に指定されている手作り「へら竿」と、明治時代から綿ネル製造を中心としてスタートした「パイル織物」は日本一の生産量を誇る地場産業製品であります。

また、都市機能では、交通の要衝を受け継ぎ、国道24号と国道371号の2本の基幹国道が交差

まちづくりを推進し、効率的かつ効果的な市政運営に努めています。

しかしながら、近年の少子高齢化社会の到来、本格的な地方分権の推進、住民ニーズの多様化・複雑化、さらには市税収入の減少など、本市を取り巻く社会経済情勢は厳しい状況が続いています。本市の経営状況を示す経常収支比率は、平成19年度においては96・9%と財政の硬直化が進み、今後より一層の行財政改革の取り組みが求められています。

こうした状況を踏まえて、本市では、平成18年11月に「橋本市行政改革大綱」ならびにその推進のための実施計画である「橋本市集中改革プラン」を策定し、「市民に開かれた行政運営」「行政サービスの質の向上と適正化」「簡素で効率的な行政運営」の3つの主要項目を基本に、新しい時代に対応した新たなまちづくりのビジョンとして「橋本市長期総合計画」を策定し、まちの将来像である「時間ゆたかに流れくらし潤う創造都市」の実現に向けて取り組んでいるところです。

おわりに

本年度は、「橋本市集中改革プラン

するとともに、これらと平行して通る、京都、奈良、和歌山を結ぶ京奈和自動車道橋本道路が平成19年8月に開通し、大阪府下の都市部とを結ぶ国道371号バイパスの建設も着々と進んでいます。

橋本市の現状と課題

本市では、北部丘陵地において昭和51年から始まった大規模住宅開発を契機に急速に宅地化が進み、大阪方面からの転入者による人口急増の住宅都市として発展してきました。

しかしながら、本格的な少子高齢化の進展や、若年層の就職・就学などによる転出、また、子育てを終えた転入市民が高齢化を迎え、より利便性の高い大阪の都市部へ戻っていくという回帰現象などにより、本市人口は、平成11年を境

に年々減少を続けています。

加えて、地方自治体を取り巻く環境の変化や長引く景気の低迷により、歳入が大きく落ち込み、本市財政は非常に厳しい状況に陥っています。

そこで私は、定住人口の安定化を図るため、企業誘致を核とした職住近接型のまちづくりに方向転換致しました。市北部にある73・1haの企業用地「紀北橋本エコヒルズ」を造成するとともに、全国トップレベルの企業立地優遇措置を設けました。また、私自身も直接企業訪問してセールズをするなど企業立地に全力を挙げて取り組んでいるところでもあります。こうした活動が認められ、平成19年12月に、経済産業大臣から「企業立地に頑張る市町村20選」に認定されました。

さらには、京奈和自動車道橋本道路の開通や集客力のある大型商業施設の立地が進むなど、都市機能が年々充実してきています。

しかし、大動脈である国道

による環境への負荷が少ない「緑のまちづくり」に取り組まします。

また、国の政局、経済の動向を十分に見極め、全職員一丸となって英知を結集し、「創意と工夫」「コスト意識」をもって行政課題を着実に克服しながら、効率的かつ効果的な行政運営を行い、総合計画に掲げた将来像を実現するために、諸施策に全力で取り組んでまいります。

プロフィール

- ◆ 面積 130・31km²
- ◆ 人口 6万8602人
- ◆ 世帯数 2万5857世帯

〔将来都市像〕時間ゆたかに流れくらし潤う創造都市 橋本
〔まちの特徴〕大阪府、奈良県に隣接し、和歌山県への玄関口。県の伝統工芸品第1号に指定されている手作りへら竿[※]とパイル織物[※]は日本一の生産量を誇る。

※手作りへら竿…ヘラブリコ専用の竹竿
※パイル織物…毛足の長い織物で、自動車(クラウン)などのシート生地で使用されている



橋本市長 木下善之



〔市町村合併〕平成18年3月1日 橋本市、高野町町で新設合併
〔特産品〕柿、巨峰、鶏卵、手作りへら竿、パイル織物
〔観光〕杉村公園、玉川峡
〔イベント〕紀の川祭、紀の川カップまつり、まっせ・はしもと、全国ヘラブリコ選手権大会(HERA-1グランプリ)

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

文化あふれる交流と 定住のまち三好市の実現を！

豊かな自然資源や 観光資源を誇るまち

三好市は、平成18年3月1日に4町2村が合併し、徳島県の最西部、四国のほぼ中央に位置する都市として産声を上げました。四国一の広大な面積を持つ本市は、森林面積割合が87%と林野が広い地域で、また全国水準を大きく上回る少子高齢化が進んでいる典型的な過疎山間地域であります。

本市は、剣山山系に源を有する祖谷川の源流から吉野川上流域まで広範囲なエリアから形成され、日本百名山の剣山を中心とした剣山国定公園、大歩危・小歩危峡、塩塚高原、黒沢湿原などの起伏に富んだ自然景観に恵まれています。また、日本三奇橋の一つ・祖谷のかずら橋や、東祖谷山村落合伝



日本三奇橋の一つである「祖谷のかずら橋」

外国人誘客の取り組みの一環として、外国語案内看板整備事業、観光地としての魅力向上を図るためのガイド養成や接客研修事業、地元の魅力を生かしたプログラム開発事業などを実施しているところ

自然豊かな観光資源を有する本市におきまして、私は、観光産業はさまざまな分野の業種に関連する、すそ野の広い産業ととらえております。こうした資源を有効に活用した観光施策を官民協働で展開することによって、人口の定住をにらんだ交流人口の拡大と地域の活力の再生を考えています。このことは、雇用の場の創出や内需の拡大にもつながり、持続可能なまちづくりの柱になるとも考えています。

今後におきましても、観光地としての魅力アップを図るとともに、

的建造物群保存地区など自然資源や歴史・文化資源が数多く存在しています。

また、本市には日本最高のラフティングスポットといわれている吉野川があり、ここに練習拠点を置く女子日本代表チームが今年の5月にボスニア・ヘルツェゴビナで行われたラフティング世界大会で総合2位に入りました。大会前に私どもが激励し、そして私と愛犬が吉野川のほとりを散歩する際、よく見かけたメンバーが歴代最高の快挙を達成し、驚いているとともに大変喜んでます。

観光立市を目指して

国においては、観光立国の実現に向けて平成19年6月に観光立国推進基本計画が閣議決定され、平成20年10月には、国土交通省の外

市民全員がおもてなしの心をもって、全国からのお客さまをお迎えするための観光地づくりに取り組む所存です。

情報通信網を活用した 安心・安全のまち

本市は、合併以前から人口の減少と高齢化が急速に進行しており、最近では集落の維持が困難な地域も増えています。このため、生活水の確保、医療サービス、道路維持管理などが不十分であるなど社会インフラの脆弱性が目立っている状況で、福祉の充実や防災・安全対策、教育の充実など、あらゆる観点から情報通信基盤の整備が不可欠でありました。

このようなことから、私はこの情報通信網の整備を最重要課題と位置付け、合併後積極的に事業を展開、本年1月に市内全域での整備が整い、地上デジタル放送への対応はもろろん、自主放送のデジタル化、インターネットやIP電話などのサービスを提供できることとなりました。

今後は、医療福祉や教育などの充実、地域産業の発展、広域行政の展開など、市民皆さまの日常生

局として観光庁が設立されました。

観光をリーディング産業と位置付けている本市にとっては、まさに追い風が吹いていると感じており、観光立市を目指してさまざまな事業を展開しているところです。

平成20年7月11日には内閣府の「地方の元気再生事業」に本市が認定され、「伝説が見える・伝わる、観光まちづくり」をテーマに、秘境祖谷の山村生活を生かした体験プログラムや地元食材を活用した地域産業振興、国の重要伝統的建造物群保存地区であります落合集落の残された美しい集落景観を活用した観光振興、古民家のかやぶき屋根の再生など複合的なテーマを組み合わせた複合的なテーマを共に磨き高め合う新しい歴史観光まちづくりを目指して取り組んでいます。この地域ではかかしを

活においてさまざまなサービスを提供し、高齢者も子どもも安心して快適な生活ができる環境を整えていこうと考えております。

また、本年度においては、ふるさとケータイモデル事業を実施することとしており、ケーブルテレビ網と無線通信技術の連携を図りながら、高齢者を含むすべての住民が、家庭(有線)に加え外出先(無線)でも活用できる緊急通報システムを構築し、医療・健康関連サービスの充実を図る実証実験を行う

プロフィール

- ◆ 面積 721.48 km²
- ◆ 人口 3万2310人
- ◆ 世帯数 1万3801世帯

〔特来都市像〕自然が生き生き、人が輝く交流の郷 三好市
〔まちの特徴〕四国一の広大な面積と豊かな自然資源や観光資源、歴史・文化資源を誇るまち



三好市長 俵 徹太郎

- 〔イベント〕塩塚高原野焼き、いけだ阿波おどり、祖谷平家まつり、国際雪合戦四国大会、ふれあい雪まつりin腕山
- 〔特産品〕シイタケ、茶、ユズ、ソバ、コンニャク、源平イモ
- 〔観光〕大歩危・小歩危峡、黒沢湿原、祖谷のかずら橋、箸蔵寺



※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

使ったまちおこしも行われており、それぞれのかかしは名前や住所、性格などが住民登録され、観光地に置かれた70体のかかしが訪れた観光客を出迎えます。

また、昨年10月に設立されたばかりの観光庁から、全国でも16地域、四国では唯一、徳島県と三好・美馬地域の2市2町で構成する「にし阿波観光圏」が国土交通大臣の認定を受け、2泊3日以上滞留型観光圏の形成を目指しています。

この事業では、日本の原風景を生かしたモニターツアーを開催し、旅行商品化に向けての取り組みや



吉野川は日本屈指のラフティングスポット

こととしています。

新生三好市も4年目を迎えました。昨年3月には、三好市のまちづくりの方向性を示す「自然が生き活き、人が輝く交流の郷 三好市」を基本理念とした「三好市総合計画」を策定し、自らのまちとしての個性や特徴を醸成しつつ、地域の一体性の確保を図ることが重要であると認識し、住民と行政が連携し、心一つにした協働のまちづくりを進めていきたいと考えています。

「太宰府市まるごと博物館」のまちづくり

「歴史とみどり豊かな文化のまち」太宰府

太宰府市は福岡市の南東約16kmに位置し、東に宝満山、北に四王寺山、その中心を御笠川が縦貫しています。

また、九州自動車道太宰府インターチェンジや福岡都市高速道路



歴史散策の中核施設である「太宰府市文化ふれあい館」

水城インターチェンジがあり、JR鹿児島本線や西鉄天神大牟田線と西鉄太宰府線、国道3号など、交通の利便性にも恵まれています。

昭和40年代以降には大規模な宅地造成などが行われ、福岡都市圏の住宅都市として急速に人口が増加し、昭和57年4月に市制を施行しました。

市内には大学や短期大学が8校、高校が4校立地し、豊かな自然と歴史に囲まれた住宅・文教都市で、平成10年に導入したコミュニティバス「まほろば号」が市内の公共施設などを結び、市民の移動手段として、また、高齢者の外出支援や観光などにも大活躍をしています。

古代においては、大陸文化の窓口、外交や防衛の要衝として、「太宰府政庁」が置かれたところであり、大宰府跡、水城跡、観世音寺、戒壇院や太宰府天満宮など数多く

の歴史・文化的遺産が市内の至るところに点在し、市域の約15%、455haが史跡地として指定されています。

このような歴史・文化的遺産と豊かな緑を楽しみながら市内を散策できるように、太宰府天満宮から水城跡まで続く「歴史の散歩道」を整備し、この動線上には散策ルートの中核施設としてさまざまなイベントや展示品を楽しむことができる「太宰府市文化ふれあい館」や、滞在型観光の拠点として、また、太宰府観光の情報発信基地としての「太宰府館」を開館しています。

さらに、平成17年10月には全国で4番目の国立博物館となる「九州国立博物館」が開館し、現在では年間700万人を超える観光客が訪れる「史跡と観光のまち」として日々発展を続けています。

市内全域を博物館としてとらえるまちづくり

本市には、悠久の歴史が織りなした豊かな自然と数多くの歴史・文化的遺産があり、市内の至るところで原風景と混然一体となっています。

「太宰府市まるごと博物館」とは、これらの地域資源を生かしながら、市内のどこに行っても自然や歴史や文化を五感で感じ、味わうことができるまちを目指し、市内全域を「屋根のない博物館」まちぐるみ歴史公園」としてとらえたまちづくりです。

このためには、歴史・文化的遺産の保存活用や九州国立博物館などに集積される資料、情報、知識の活用、文化の振興や生涯学習の推進、自然環境の保全や景観づくり、産業・観光の振興など、市民、事業者および行政がそれぞれの役割を分担し、その上でさらに連携・協働することが必要になります。

そして、地域の再発見・再評価を通して得られた知識や新たな価値を、市民の財産として共有し、地域に対する誇りと愛情の育成につなげていきます。

昨年5月には「歴史まちづくり法」が制定されました。これを「太宰府市まるごと博物館」を早期に具現化できる絶好の機会ととらえ、歴史的風致維持向上計画の策定と国の認定に向けた取り組みを進めていくと同時に、昨年5月に景観まちづくりを積極的に進める景観行政団体となりました。

今後、フォーラムや市民意識調査、市民会議の開催などを展開しながら、太宰府特有の地域資源を生かし、個性と魅力あふれる美しいまちを市民との協働で守り育てるため、その根幹となる景観計画、景観条例を平成22年度中に制定したいと考えています。

市民との協働を目指して

少子高齢化社会の急速な進行、希薄になりつつある人と人とのつながりなど、地域力が低下する一方で、定年退職などを迎える団塊の世代の方々が、地域に戻って新たな活躍を展開されるなど、地域

の在り方に大きな転換期が訪れています。

このため、従来の区長制度を見直し、新たに自治会組織としての制度化を図り、自治会長を中心として小学校区単位で組織する校区自治協議会の組織化など、市民一人ひとりが地域のまちづくりに参加し、運営にも携われるような仕組みづくりや場づくりを行いながら、地域コミュニティを推進するための施策を展開しています。

これからは、市民が主体となってまちづくりに参画し、自分のまじを知り、自分のまじに誇りと愛情を持つことができるようなまちづくりを進めていかなければなりません。

現在、市民と行政が協働し、市



古代の「大宰府政庁」跡に建てられた万葉歌碑

プロフィール

- ◆ 面積 29・58 km²
- ◆ 人口 6万9250人
- ◆ 世帯数 2万8350世帯

〔将来都市像〕歴史とみどり豊かな文化のまち

〔まちの特徴〕市域の15%が史跡地として指定されており、豊かな自然と歴史・文化的遺産に囲まれたまち



太宰府市長 井上保廣



- 〔特産品〕梅ヶ枝餅、木うそ、太宰府梅酒「東風の梅」
- 〔観光〕九州国立博物館、太宰府天満宮、水城跡、大宰府跡、宝満山、四王寺山、観世音寺、戒壇院、光明禪寺
- 〔イベント〕鬼すべ神事、曲水の宴、太宰府 古都の光、太宰府市民政庁まつり

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。